

天野穂乃香さん

音楽研究科 博士前期課程 音楽専攻鍵盤楽器領域

留学先：リスト音楽院（ハンガリー）

留学期間：2021年9月～2022年6月



留学先の大学について

ゲストチューデント（Guest student）として9月からブダペストでの暮らしが始まりました。コロナの影響で渡航日が遅れてしまい入学式には参加できませんでしたが、レッスン時間を決めるミーティングや授業などで友達がすぐできたので安心でした。私は、音楽院からトラムで15分程の場所から通っていました。学生定期券が3,450ft（約1,225円）で購入でき、ブダペスト中の公共交通機関が乗り放題なのでお得です。音楽院では留学生によるコンサートや定期的に開催されるクラスコンサート、マスタークラスなど様々な演奏機会があります。私はBalázs Réti先生とBáll Dávid先生に師事していました。本館でも練習することはできますが、音楽院には旧館と2つの別館があり、ヴェシェリーニ通り近くにあるリゲティ館では全23部屋の練習室があります。8:00から24:00まで1人1日4時間まで練習することができ、予約は全て公式サイトで行います。音楽院で毎晩開かれるコンサートは音楽院の学生なら無料で聴くことができます。チケット売り場だけでなくメールで予約が取れるので大変便利です。

留学実現のために努力した点

コロナ禍の中、留学を実現することができたことはとても幸運でした。渡航許可が降りる一年前から住居探しやピアノ探しを始め、先生にコンタクトをとり、加えてワクチン接種やPCR検査など、例年よりも手続きが多く渡航準備に苦勞しました。体感として、渡航手続きは早ければ早いほど良いです。語学面においては、留学前に英語を聞く・話すことを習慣づけるようにしていました。特に音楽用語は聞き取れないとレッスンで困るので、音楽留学で役立つ英会話の書籍を購入し事前に学習しました。英語が通じると言っても公用語はハンガリー（マジャール）語なので、日常会話程度は触れておく事をおすすめします。



バラージュ・レーティ先生と
パール・ダーヴィッド先生

留学先の授業について

週2回行われるソロレッスンは、2人の先生からご指導いただけます。他にも、室内楽やソルフェージュと音楽理論、音楽家のための英語、西洋音楽史などの授業があります。日本人のためのハンガリー語という授業では日常会話レベルを学べるのでとても安心です。こちらも週2回の授業で日本人の先生が丁寧に教えてくださいます。授業の後、毎回復習を積み重ねて基本的な会話や文法は理解できるようになりました。音楽院内での会話は基本的に英語ですが、ハンガリーに住んでいればどうしてもハンガリー（マジャール）語が必要な時があります。英語で話す方もおられますが、コンサートの司会者、市場やスーパー、郵便局、ピアノ運搬業者、音楽院の守衛さんなどはハンガリー語で話されていました。全く新しい言語を学ぶことは難しいですが、ハンガリーの方に母国語で話すと大変喜ばれるので、現地の方とのコミュニケーションが楽しくやりがいを感じます。また、発音の特徴はその国独自の音楽に結び付いてくるので、その点でも大変学びになります。

留学中の日常生活について

2021年は5年に1度のリストコンペティション開催の年、そしてハンガリーの名ピアニスト、ジョルジュ・シフラの生誕100周年の年であり、記念公演がシリーズで開催され大盛況でした。さらに翌年3月には、5年という大規模工事期間を経てオペラ座がリニューアルされハンガリー中が熱狂に包まれた一年となりました。

ブダペストには素晴らしい劇場がいくつもあり、何処も学生はリーズナブルな値段で聴くことができます。ブダペスト芸術宮殿 Műpa は500ft(180円)、オペラは約1,500円で聴くことができるので、留学中毎晩開かれる演奏会に何度も足を運びました。バラージュ・ヤーノシュ、ボリス・ベレゾブスキー、マリア・ジョアン・ピレシュ、ダニエル・バレンボイム、カティア・ブニアティシヴィリ、グリゴリー・ソコロフ、フジコ・ヘミング...などの著名な演奏家のコンサートもリーズナブルなお値段で聴くことができました。ハンガリーのコンサートは拍手喝采の後に段々手拍子が揃っていく瞬間があるのですが、観客席の興奮が一体となっていく感じがとても面白いです。



演奏会のリハーサルの様子

留学中に努力した点

限られた時間の中でなるべく多くのことを吸収しようと、レッスンでは毎回違う曲目を持っていきました。そして、英語に自信がなくても積極的に英語で質問するようにしました。また、学校やハンガリー国内だけでなく、近隣国で開催されるセミナーやコンクールにも挑戦しました。ハンガリーとオーストリアの国境沿いにある町ソンバトヘイで演奏の機会があったり、日本ハンガリー友好協会主催のイベントに参加したり、日本大使館での演奏など、演奏機会を逃さず積極的に参加しました。留学を充実させる鍵は、やはり自ら行動を起こすことだと思います。籠って練習に没頭するだけでなく、外に出て散歩しながら街の雰囲気を観察したり、美術館に足を運んだり、コンサートで刺激を受けたりなど、そういった練習以外の経験を積む事も意識して活動していました。留学前から何に挑戦し達成したいのか、何を学びたいのか、イメージを固めておくと思行しやすいと思います。

留学で気づいた点

留学前 2020 年のハンガリーは外出制限やイベントの中止が相次いでいましたが、丁度留学が始まる頃に行動制限が緩和され、3 月頃にはマスク義務が撤廃され活気溢れる日常生活を過ごしました。お店は、土日は営業時間が短く、休みの所が多いので注意が必要です。物価は 0.36 円 (2023 年現在) と日本よりも生活費がかからないのでありがたいです。ハンガリーの気候は日本と少し違い、雨があまり降らず乾燥気味です。水質も硬水なので人によって合う合わないがあると思います。治安が悪い印象はありませんでしたが、ホームレスが多く見られ、遅い時間帯の外出やバーやクラブなどのお店には近寄らない方が良くとハンガリー人の方が教えてくれました。初めてのハンガリー生活で戸惑うことが何度もありましたが、仲間の存在や頼れる方が近くにいたのでとても心強かったです。また、重い荷物を持っていたら声をかけてくださったり、郵便局で戸惑っていたら親切に教えてくださる方がいたり、ハンガリーには優しく暖かい人が多いです。留學生活では人との関わり、助け合いがとても大切だと思いました。



楽友協会で行われたコンクールのガラ・コンサート

留学の成果

私自身、ハンガリーの音楽に関する研究テーマを持っていたので、本場の民族楽器の演奏や民族舞踊に触れる事ができ、ハンガリー人の先生にご指導いただけたことは研究の大きな成果に繋がりました。コンサートで聴いたツィンバロムの演奏や、レストランで聴いたジプシー楽団の演奏は今でも忘れられません。海外のセミナーに出る、コンクールに挑戦するといった目標も成し遂げることができ自己成長に繋げることができました。また、留学中に様々な国に赴き、歴史ある音楽家の生誕地や住居、活躍地に訪れることができました。当時の作曲家が見た景色、歩いた道、住んでいた家を実際に見る事ができとても貴重な経験となりました。留学中、クラシックだけでなく、オペラ、バレエ、ミュージカルなど様々な公演に足を運びました。音楽文化が深く根ざしている国は劇場も演奏会の数も多く、リーズナブルなお値段で聴けるので留学前よりも気軽にコンサートへ行くことができました。一流の演奏はいい耳を育てると言われるように、自分の演奏をもっと注意深く聴くようになりました。

経験をどう生かすか

世界情勢が不安定な中、初めての海外留学は不安でしたが、沢山の方の支えがあり実現することができました。約1年間の交換留学はあっという間で、今度は正規生として学んでみたいという気持ちが強くなりました。留学後はハンガリーで得た知識や経験を演奏に活かし、音楽活動を通じて社会に貢献できたらと思っています。



ハンガリー日本大使館での演奏